



民報

No. 1044 2007-03-04

日本共産党 須佐支部

電話 2016 fax 2223

kinn2@haginet.ne.jp

無料法律相談

3月 23日(金)
午後10時30分～12時
サンライフ萩
弁護士が相談を受けます



萩市3月定例議会始まる 3月2日

3月定例萩市議会が、2日から始まりました。300億円の一般会計当初予算案など新年度予算やゴミ袋50円の手数料条例、助役を廃止し副市長を置く条例など53議案が審議されます。

一般質問13人 宮内議員は11番目 8日に

一般質問は6日から8日までおこなわれ13議員が質問します。宮内議員は11番目で、8日の午前10時からとなっています。宮内議員は今回4項目を通告しています。

どうする廃棄物処理

廃棄物処理に関して、福栄産業廃棄物最終処分場建設を阻止するための方策を質します。合わせて、一般廃棄物処理基本計画に関して、基本姿勢について確認するとともに、建て替えが課題になる清掃工場について質します。

弥富診療所の入院施設再開

弥富診療所の入院施設の再開について、住民の要望を基にその方針を聞きます。

交通手段の確保どうする

交通手段の確保をはかることから、根強い要望のある田万川方式の福祉タクシー制度の復活について質します。ぐるっとバスの改善と福祉タクシー、団体組織での運行など。

図書館と児童館の併設はどうなの

図書館と児童館が併設されて建設される予定です。果たして併設が良いのかどうか。児童館は大きなものを作るより、子どもの近くにたくさん作るほうが有効です。どう考えているのかを質します。



産廃処分場阻止をめざし決起集会に 1100人 水と命を守る会

萩福栄の羽賀台ゴルフ場建設予定地に、産廃廃棄物最終処分場の建設をするという業者の動きに対して、2月24日萩市民が1100人集まり建設阻止に向けて総決起集会を開きました。萩、福栄、水と命を守る会が呼びかけたものです。

地元の廃棄物の埋め立てではない

15万立方メートルにも及ぶ、大規模な処分場が萩市に作られるのは、地元の廃棄物を処理するものではありません。

勇気与えてくれた坂本弁護士の講演

集会では、呼びかけ人の代表が決意表明し、来賓として出席した市長、議長、3人の県議がそれぞれ、断固

生半可なことでは阻止できない

せん。業者は全国からの搬入を企図しています。阻止すると述べました。議長は「美祢市では市民が反対したが、山口県が許可した。生半可なことでは阻止できない。県庁に旗を上げて押しかけるぐらいの取り組みが必要だ。阻止するまで力を合わせてがんばる」と述べました。



「産廃廃棄物最終処分場の恐ろしさ」というテーマで講演した坂本博之弁護士（ゴミ連幹事、つくば市在住）は、さまざまな新しい情報を提供してくれました。そして何より、産廃処分場を阻止する運動がこれからの社会にとつとても大事なことだと示してくれたことは、大きな勇気を与えてくれました。

遮水シートは

例外なき欠陥品

安定型処分場の遮水シートは例外なき欠陥品と断言しました。遮水シートの寿命は、メーカーの職員が10年程度と発言していること、業界団体でも15年と

いつていること、東京日の出処分場でもシートが破れて地下浸透していることが調査で推定されているなどの情報を示しました。埋め立てられる廃棄物の中身も環境汚染、健康被害をもたらす恐れが高いと示しました。

粘り強いたたかいを

さらに、「萩市の状況は山口県との事前協議の準備の段階で、まだまだ長い戦いになる可能性があります」と述べ、県が許可を出した後も、差し止めを求め、飯処分の裁判でまげ続けたが、本訴で勝訴した千葉の事例をあげ、「あきらめず、



長い列になったデモ行進（2月24日 図書館前）

処分場作るなは世界の流れ

自信をもって

粘り強く、絶対に許さないという気持ちを持って戦うことが大事だ」と示されました。

処分場作らせないことが廃棄物を出さない社会につながる

そして

「それでも『あなたもゴミを捨てるでしょう』『どこかにつくらなければいけない。どうしても必要なもの』という攻勢もかけられるでしょう。」

でも、世界の流れはゴミを出さない、循環型社会の方向にすすんでいるし、すすむべきということは決まっています。全国どこでも処分場を作らせないことが、廃棄物を出さない社会をつくることにつながっていく。世界の流れをすすめる戦いだということに自信を持って取り組んでほしい。」と述べています。

萩市始まって以来のデモ行進

講演のあと参加者は、市内をデモ行進しました。萩でこれだけの人がデモ行進したのは、本当に何十年ぶ

りでしょうか。萩市始まって以来です。

執念示す業者

しかし、業者は簡単にはあきらめません。一説によると、「ここに50億円つきこんだ。やめるわけにはいかん」といったそつです。金の力に頼る業者もいる

坂本弁護士も、産業廃棄物処分場には巨額の金がかかるといつています。反対運動にかかわった弁護士

のところに「3億円出すからやめてくれないか。領収証も要らない」と言う業者がいたことを示して、業者には3億ぐらいはなんともないと述べています。

すでに50億円もつかつたということは、どこにバラ撒かれているのでしょうか。政治家や地元業者への関与があるのでしょうか。札束攻勢をかけられたときに、どう持ちこたえるかは、大きな課題です。

「焼く」「埋立てる」はやめるべき

それにしても、廃棄物を焼いて埋め立てるといふ考えは、もうやめるべきです。産業廃棄物にしても、一般

廃棄物にしても、ゴミを出さない、どうしても出てきた廃棄物は資源として循環させる、こういう方向にすすむべきです。

産業廃棄物最終処分場の建設に反対していくからには、萩市も市民も業者も、新たな決意が必要です。ゴミを出さない、焼かない、埋め立てないという方向に向けて、動き出すときではないでしょうか。

遮水シートの耐久性は15年

日本遮水工協会のホームページに

坂本博之弁護士が指摘した、安定型処分場の遮水シートの耐久性について、確かに、日本遮水工協会のホームページに掲載がありました。(下図参照)

メーカーは処分場の埋め立て期間を5年から15年と見ています。福栄産廃では埋め立て期間は20年で、この間シートが破れなければ良いと思っっているようです。その下の地下から出てくる水を飲料水にして、いる人にはとても許せる話ではありません。特に羽賀台の予定地は、

萩の農協4支所「廃止はすべきでない」と阿武の組合員

あぶらんど萩農協の座談会で、萩市農協の貸倒引当金が9億円不足していたことから、萩の4支所の統廃合をすることを示されました。

このことに、山口阿武農協の組合員から「支所の統廃合をすると組合員の利便性がなくなる、こんなことをすべきではない」という声が上がっています。

協同組合では、経営における失敗は役員が負うのが

当然です。最終的には組合員が責任を取らざるをえませんが、萩市農協の役員の方の責任の取り方には「不十分」という意見があります。

そんな中で、組合員にその責任を押し付けるような支所の統廃合をすすめることは、すべきでないという意見が出るのは当然です。

山口阿武の組合員からそういう意見が出るのは、おなじ農業をする仲間、同じ

農協の組合員として助け合うという協同の精神があるからです。

責任追及し助け合うのが協同組合

責任追及はきちんとするが、苦しいときには互いに助け合うというのが、協同組合です。責任追及をあいまいにしては協同できません。合併を元に戻せという意見があまりないのは、山口阿武の組合員がこの協同精神をしっかり認識しているからではないでしょうか。農業が、農協が苦しむ根本原因は政治あるのですから。

責任を取るべき人はきちんと責任を取らねばなりません。しかし、苦しい現状は変わりありません。それを打開するためには組合員、役員、職員が力を合わせて乗り切っていくことが大事です。山口阿武の組合員が、支所の統廃合に懸念を示したことはその気持ちがよく現れています。

しかし、この組合員の気持ちに、組織や役員があぐらをかくようでは、農協の未来はなくなるでしょう。

8. 耐久性について

耐久性は、遮水シートにとって、最も重要な項目です。最終処分場の埋め立て期間は、概ね5~15年程度とし設計されていることから、遮水シートの耐久性も15年を目安とする考え方が一般的なものとなってきています。さらに、隣地住民からは、子供、孫の代にまでの安全性を確保したいとして、期待寿命は50年以上にまで高まってきました。

そこで、基準化にあたっては、遮水シートの材質については、15年を目安として、各項目の評価条件及び判定基準を設定しました。

